

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 沖縄県北谷町立北谷中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒904-0105
沖縄県中頭郡北谷町字吉原480番地
E-mail chatan-j@chatan-j.chatan.jp
Website http://www.chatan-j.chatan.jp
幼児児童生徒数 男子 310名 女子 303名 合計 613名
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「持続可能な社会づくり」を活動テーマとして、ESDを自分たちが過ごしている社会を次の世代まで守る為の学びとして捉え、ESDの実践を通して生徒会活動や地域行事に積極的に参加し社会貢献に参画できる態度の育成と日々変動していく国際社会に柔軟に対応するための力の育成を目標とした。

具体的には各学年の総合学習の時間での活動と学校全体での活動、生徒会を中心とした活動を行った。

1学年では、

- ・地域交流(公民館での勉強会・校区内の伝統や文化についての勉強)
(平和学習・国際理解教育)
- ・事前に班ごとに各自治会区をテーマごとに調べ、地域マップ作りをし、それを各自治会公民館にて発表した。(7月)
- ・本島南部の史跡を見学することで平和について勉強する機会となった(1月)
- ・「服のチカラプロジェクト」
ユニクロと連携して「服のチカラプロジェクト」に取り組んだ。(7月)
- ・理科の授業の大地の自然の単元の地震の章で地震に遭遇したときのことを話し合わせ、もし起きたときにどうしたらよいかどう動くかを考えさせることができた。

2 学年では

- ・ 沖縄の文化や世界遺産の紹介・平和学習・学校間交流
- ・ 学年代表 2 名を長崎平和祈念式典に参加させ、その活動内容を報告しながら、平和について考えさせる機会になった（7～10月）
- ・ 彦根市立中央中学校と共同制作（絆文字の作成）をし、交流を深めた。（10月～3月）

3 学年では

- ・ 平和学習・国際交流・外国の文化を知る・学校間交流
- ・ 総合学習の時間を活用して、エイサーを習得し運動会で実践した。また、地域のイベントに参加してエイサーを演舞することで参加者に感動を与えた。（8～11月）
- ・ 生徒会執行部を中心に彦根市立中央中学校と情報や記念品の交換をし、交流を深めた。（4月～3月）
- ・ 本校生徒がイギリスへ短期研修の参加したことを報告した。（10月）

全学年

- ・ 男女を区別しない名簿の導入（ジェンダー教育）
- ・ 「ペットボトルキャッププロジェクト」（4月～12月）
前年度に引き続き、ペットボトルキャップ回収に取り組み、イオングループへ回収したキャップを寄贈した。（合計kg）
- ・ 地震を想定した避難訓練の実施（10月）
- ・ 生徒会役員による地域行事への参加（12月）
（桃原イルミネーションアートコンテスト）



滋賀県彦根市立中央中学校との交流
（ユネスコスクール同士の交流）



ディーンマグナススクールとの交流
（イギリスの中学生との国際交流）



ユニクロ 服のチカラプロジェクト
回収の様子



1 学年 地域学習の様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>各学年の総合的な学習の時間を基本に、 1 学年では地域を知る学習 (自分たちの住む環境を知り、今あるものや昔あったものなどを学ぶ学習) を行い、 2 学年では職場体験学習や修学旅行などを通して自分たちの文化と他の地域の文化の違いを感じさせ、 3 学年ではその違いを感じた上で今まで受け継がれてきた自分たちの伝統文化を継承し、次の世代につなげていく活動を共通確認しながら取り組んでいる。</p>

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

校長及び教頭、各学年主任、生徒会担当が企画・立案・連携協力することで学校全体で組織的に取り組めるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

各学年に所属するユネスコスクール担当教員と年間活動についての成果と課題を共通確認し、職員会議にて全職員への提案及び質疑応答を行っている。
成果としては校内研修におけるESDの共通理解、3(1)の活動概要の実施を行うことができた。
課題としてはESDの理解の浸透と県内の学校がないため、沖縄の特性を発展させづらいことである。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

彦根市立中央中学校との交流でお互いの生徒全員が交流するための手法として絆という文字を両校の生徒の活動写真で作成することをし、また互い二年に一度プレゼント交換(しおりやキーホルダーなど)をすることでつながりを深めることができた。普段の活動の様子はスカイプを利用し、互いに交流することでお互いの刺激になっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項2-3に対応

県内のユネスコスクールは小1校、中1校だけであるが全国大会やEPO九州による交流会などで他校の活動や他団体の取り組み及び連携が分かり、自校の課題を再確認したり、新たに取り組める活動を見いだすことができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項2-4に対応

沖縄県：琉球大学、KBC学園、金武町立中川小学校
滋賀県：彦根市立中央中学校
イギリス：ディーンマグナスクール

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

総合的な学習の時間における取り組みは毎年、続けられている内容であるが、ESDの考えのもとで教師側が話をすることで子供達は今ある課題について多面的・総合的に考えられるようになってきている。また、県外の学校との交流を行うことで自分たちの文化との違いを見つけ、自分たちの伝統を大切にしようとする心が芽生えている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

総合的な学習の時間

1年：服のチカラプロジェクト（7月）、地域学習（10月）、平和学習（1月）
2年：職場体験学習（7月）、長崎平和大使（7月）、修学旅行（2月）
3年：学校間交流（4月）、ディーンマグナスクール交流（7月・1月）
エイサー（8～11月）
生徒会：学校間交流（4月・2月）、スカイプ交流（5月・10月・12月・3月）
ディーンマグナスクール交流（7月・1月）